講義名	教養特講Ⅱ（プレゼンテーション技法実践）					授業形態	
担当教員	大島　淑恵	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ５時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	

主題と概要

企業や社会の中で協創をともなう活動とその機会において、他者の理解を得るためにプレゼンテーションによる働きがけが求められる。特に、不確実な状況下において、相手に何を伝えるのか、どのように伝えるかを論理的に設計し、その結果として何を伝えられたかが問われる。本学では、演習や社会連携・社会共創活動における活動などで、「プレゼンテーション」の機会は多く設けられている。しかしながら、その技法については、それぞれの授業内やプロジェクト内で実践的に学ぶことが多く、体系的に学ぶ機会は少ない。これまで、発表用のスライドはできているがプレゼンテーションとしては未熟であることも多く見られた。
この授業では「教養特講Ⅰ（プレゼンテーション技法入門）」と連携し、プレゼンテーションの実践力を身につける。そして、社会共創活動や社会に出て、通用するプレゼンテーションの力を養う。

到達目標

1.プレゼンテーションの知識と技術を身につけ実践できる。
2.目的意識を持ってテーマに沿った準備と発表ができる。
3.ビジネスプレゼンテーションの実際を理解できる。
4.プレンテーションのためのビジュアル効果を意識したデザインができる。
5.聞き手を主体としたプレゼンテーションが実践できる。
6.相手に働きかけるための伝え方ができる。

提出課題

・授業の振り返りコメントを毎回提出
・プレゼンテーションのコンセプト設計案の提出
・プレゼンテーションのストーリーラインと骨子の提出
・プレゼンテーション発表資料の提出
・発表シナリオの作成と提出
・自己評価表の提出
・他者評価表の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・提出物を評価しコメントをフィードバック予定。
・プレゼンテーション中間発表にコメントにより完成度の向上を図る。
・完成プレゼンテーション発表後に講評を実施する。

評価の基準

提出課題（30%）
授業への積極的参加度（10%）
プレゼンテーション課題資料（30%）
プレゼンテーション発表（30%）

履修にあたっての注意・助言他

・授業の到達目標を達成するには、継続的な授業参加が必要。
・個人やグループでの演習が中心となるため、積極的な授業参加が望ましい。
・新聞やニュースなどの時事に関心を持ち、日頃から気づきをメモするなどしてプレゼンテーションに活かすよう心がけること。
・Microsoft OneDriveやTeamsへの参加が求められる。

教科書

・使用しない.				

参考図書

・なし.				

その他

授業毎に資料配布および参考文献等を提示

授業計画

1. 授業の概要と評価方法の説明
2. プレゼンテーションの基本：目標設定と構想から企画立案について（入門編の復習）
3. プレゼンテーションの構成：ストーリー構成により成果・結果までの展開（入門編の復習）
4. プレゼンテーションの表現：情報を活かすためのビジュアル効果（入門編の復習）
5. プレゼンテーションの準備(1)：課題への取り組み（イントロとクロージング）
6. プレゼンテーションの準備(2)：コンセプトとストーリーライン、ストーリー展開のシナリオ
7. プレゼンテーションの準備(3)：課題の総評と評価
8. プレゼンテーションの実践(1)：資料作成について
9. プレゼンテーションの実践(2)：テーマ選定と背景と目的、問題提起と改善・解決案、到達目標
10. プレゼンテーションの実践(3)：個人課題の総評と評価、企画・設計における自己評価の実践
11. プレゼンテーション発表準備：リハーサルと点検
12. プレゼンテーション個人課題(1)：発表と質疑応答、他者評価
13. プレゼンテーション個人課題(2)：発表と質疑応答、他者評価
14. プレゼンテーション個人課題(3)：発表と資料の自己評価と振り返り
15. まとめ

※この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数により内容が前後、または、一部変更する可能性がある。
※対面授業を前提としたものであり、不測の事態では変更する可能性がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

○	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート	○	エ：グループワーク
○	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・課題に対してグループ内での役割分担により、進捗を図りながら進める。（担当部分に関し、30～40分）
・具体的には、毎時間グループ毎に確認し、学生自身が考え行動することが必要となる。
・疑問については、積極的に教員に問い合わせるようにすること。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

事象を多角的視点で考察し、問題の本質が何かを自身で問うことにより、新たな発想の起源となるような思考を持つことが大切であることに気づくことができる。
個人の意見を大切にしつつ、他者の考えや意見を肯定的に見ることができる。そこから、協創へと繋げることができ、独りよがりにならない改善・解決策を論じられるような発想へと繋げることができる。
他者に向けて論理的な発表ができるように基本的な技法を踏まえて、相手の意思決定や行動変容を促すことを意識できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

学生主体による実践であり、活発な対話を図りながら展開していく。
実践的な課題に対し、プレゼンテーションの設計から発表を実践して、自己評価と他者評価を交えて完成度高めていく。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
・オフィス機器メーカーにて、企業へ販売促進のためのプレゼンテーションやデモンストレーションを実施。
・社内の業務改善や新規企画の提案を実施。（QC活動）
・企業の業務改善提案と実施に携わる。
・パソコン教室経営および企画・運営に従事。

備考

対面授業を基本としたものであり、学習状況の変化に応じて、柔軟に授業展開を変更する可能性がある。